

自己評価票

- 自己評価票は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていく指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料をなります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公表されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるためのケア計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V サービスの成果に関する項目	13
合計	100

- 記入方法
 - [取り組みの事実]
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）
 - [取り組んでいきたい項目]
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。
 - [取り組んでいきたい内容]
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組みの内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。
 - [特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。
- 用語の説明
 - 家族等 → 家族、家族に代る本人をよく知る人、成年後見人等を含みます。
 - 家族 → 家族に限定しています。
 - 運営者 → 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 - 職員 → 管理者及び常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につく全ての人を含みます。
 - チーム → 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。
- 評価シートの説明
評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム えびらお
（ユニット名）	Aユニット
所在地 （県・市町村名）	長崎県北松浦郡江迎町栗越免字源八 801-2
記入者名 （管理者）	近藤 千穂
記入日	平成20年11月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
I	○地域密着型サービスとしての理念 地域でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念 笑顔で 楽しく ゆっくりと	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	今後も理念と一致する日々の暮らしが実現するように努力をしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	今後も理解してもらえように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所との付き合い 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るように努めている	○	今後益々多くの方に気軽に立ち寄ってもらえるように努力していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	○	施設行事への参加の呼びかけ・地区行事への参加等積極的に地域とかかわりを持っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者などの暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実践には結びついていない。	○	施設で役に立つ事柄があり、地域の方よりの要請があれば積極的に取り組みたい。
3. 理念を実践するための理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の職員会で話し合いをしながら改善できる物から取り組んでいる。①理念の変更 ②地区への参加 ③便りの発行 ④ケアプランの期間の見直し等	○	今後も評価を受けて改善できる事があればできる事から取り組みをしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況に等についての報告や話合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価への取り組み・改善・施設行事を毎回報告している。又委員さんの意見やアドバイス等を聞きサービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	頻繁に行政の窓口に行く機会があり、その時々で相談・報告等を行いアドバイス等をもらいながら質の向上に努めている。		
10	○権利擁護事業に関する制度の理解と活用 管理者は地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	関係する入居者はいない。	○	支援を必要とする方が入所された時は支援をしていきたい。（知識としては知っている）
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待は毎月の職員会で話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約・重要事項説明時に十分な説明を行うようにしている。又その後に不明な事があれば尋ねてほしいと申し添えるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に気軽に意見を言えるようにしているの で些細な事も尋ねたり要望されたりしている。	○	苦情・要望があった場合、改善できる事柄であれば改善に向けて取り組んでいく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動などについて家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	①健康状態・日常の生活状態等は面会時に話しをしたり急遽の病院受診の場合はその都度家族に報告をしている。②金銭管理報告は毎月請求書と一緒に送付している。③職員の異動は毎月発行する「えびらお便り」に載せている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが投函はない。質問・不明な点は電話や面会時に尋ねられる事が多い。	○	苦情・要望等があった場合、改善できる事柄であれば改善に向けて取り組んでいる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の職員会議で活発な意見がでる。又気付いた時点で申し出ある。取り組める物・無理のないものから取り組み運営に反映させている。	○	改善に向けた良い意見であれば積極的にとりいれているし今後も継続していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が出来るよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	おおまかな日課は決めているが利用者の状況に応じてその時々で変更し、利用者の不利益が生じないように努めている。		
18	○職員の異動による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等があった場合は頻回に来園しゆっくりと時間を過ごし話を聴く等の心配りをしている。又離職者・新職員・新入居者があった場合は「えびらおたより」に載せるようにしている。	○	ダメージを最小限に留める様に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①研修会等には職員からの申し出も含めて積極的に参加をさせている。②研修後は毎月の職員会で報告を行い処遇の改善や資質の向上に努めている。③個々のステップアップの資格試験の受講等は休暇等を優先し支援をしている。	○	本人からの申し出も含めて受講できる研修会があれば積極的に参加をさせている。資格試験等も積極的に支援をしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①介護支援専門員は同業者と定例会の会議・勉強会があり情報の交換等を通してサービスの向上に取り組んでいる。②今年は中学校の吹奏楽部を招き音楽会を開催したので近隣の施設に呼びかけた。4施設からの参加があり喜ばれた。	○	今年は前庭での音楽会を開催し、喜んでもらったのに当施設の利点を活かし相互訪問等他施設との交流も深めていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々に話あいをするようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	その時々には個々の意見を聞いたり、努力や実績を評価し昇給や賞与等に反映している。研修会等は多く参加させ向上心に繋がるようにしている。	○	慰安旅行や忘年会・新年会等を取り入れていきたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所相談に見えた時・事前調査を行える時等はよく話を聴き、又それが出来なかった方の場合は入所されてからよく話を聴くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている	①入所相談にみえた時は現在の状況や困っている事等を聴き不安の解消に努めるようにしている。②入所後も家族の相談にはゆっくりと話を聞くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後と徐々に生活に慣れた後の状態を観察し、支援の幅を見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気を徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	①入所相談～入所に至るまでは期間があっても病院入院中であつたり御家族の時間の調整が難しかったりでいきなりの開始となっている。②施設見学はいつでも誰でも受け入れている。	○	入所相談～入所に至るまでの時間がないことが多い。入所までに時間がある時は徐々に馴染んでもらえるように取り組みたいと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護する一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自宅・地域での暮らし・地域の事・家族の事・季節の話題等よく聴き、喜怒哀楽を共に出来る関係が出来ている方もいれば会話が成立しない方もあり、その方達の「思い」を少しでも汲取り出来るように取り組んでいる。	○	話される事柄や時々会話の中でその方の喜びや悲しみがわかる事がある。共感を持ちながら支えていけるように信頼関係を築いていきたい。又、会話が不十分な方の「思い」を理解し感じて支援していけるように努力していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	大きな行事等は声をかけ参加をしてもらい面会時や電話等で施設での日常の暮らし等を話し、本人・施設の理解と信頼関係が構築出来る様に努めている。		
29	○本人と家族の寄りよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が話しをされる事でこれまでの関係が大体理解できる。関係の改善と悪化されないように支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①利用者への面会は積極的に受け入れている。神社や②寺の参拝・自宅への仏様御参り等は希望される時に支援している。又希望される美容院等にも連れて行くようにしている。③場所によっては希望に添えないこともある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が係わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で親しい間柄は把握できている。関係悪化や孤立がないように支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を絶ち切らない取り組み サービス（利用）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族は、関係を絶ち切らないつきあいを大切にしている	退所された家族も来所されたりする。現在の状況等を聴いたりして相談に乗ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望がすぐには実現できなくても可能な事になるべく希望に添えるように努力している。根底には「自宅で家族と暮らしたい」との思いが強い。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後に本人・家族に聞いたり在宅で係わった病院・福祉関係者に話を聞くようにしている。入所後に本人との会話の中で聞いたりして把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の日々の状態、有する能力等職員全員が把握し支援できるように努めている。		
2. 本人がよりよく暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	①本人・家族の方からの要望等を介護計画に入れている。②主治医に相談する事もある。③職員に回覧し全体で介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期的な見直しを行い、面会時や電話等で意見交換をし病院退院後等に変化が生じている場合はその都度家族と相談し介護計画の変更をしている。主治医に相談する事もある。	○	6ヶ月の見直しから3ヶ月の見直しとした。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケア実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①利用者の日々の出来事や小さな変化も把握して緊急を要する気付きは申し送りノートに記入し実践出来るものから取り組み介護計画の見直しに活かしている。②介護記録や個別の情報は誰でも何時でも見られるようにしていて情報の共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々要望には出来るだけ対応出来るように柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるために地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、教育機関等と協力しながら支援している	まだ必要とする事例がない。	○	必要とする方が入所された場合は協力をお願いし支援をしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	まだ必要とする方がいない。	○	必要とされる方が入所された場合は話し合いを持ち支援していきたい。
42	○地域包括センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括センターと協働している	必要とする方がいない。	○	必要とする事柄ができた場合、在宅支援センターとの協働が不可欠な場合は協働をしたいと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を入所されてからも変更をしないために主治医とのコミュニケーションもスムーズに行えている。そのため主治医には何でも相談でき適切なアドバイスを受けられ早期の治療に繋がっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるように支援している	主治医に相談をしながら治療が行えている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用 of 支援をしている	①準看護師の資格がある職員と話し合いながら健康管理を行っている。②毎日の日課としてバイタルチェックを行い変化が見られた場合は主治医に指示を仰いでいる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者と情報交換や相談に努めている。あるいは、そういう場合に備えて連携している	①入院された場合でも2～3日に1度は病院に出向き病院関係者と話をし現状把握に努めている。②入院時の交換衣類の洗濯物は施設で行っている。③面会できる主治医からは病状の経過を聞き、病体の把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	①入所時に重度化された場合の施設が支援できる範囲・対応等説明をしている。②入院された場合は主治医や病院関係者に頻回に説明を受けるようにしている。職員にもその都度病状の説明を行い情報を共有している。③家族にも連絡を取りあっている。	○	終末期の対応についての家族との意思確認書は作成していない。が今後は考慮する必要があると思うので検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医などともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備をしている	終末期や重度の方の事業所としての「出来ること・できないことの」の見極めは職員間で話しあっている。主治医との話し合いも行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院・他の介護施設へ移り住む場合、関係者と話し合いを行い情報交換を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	①自尊心を傷つけないように言葉かけや対応は個々に注意をし、職員会議でも啓蒙を図っている。 ②個別記録は部外者からは見えない場所に保管をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話・行動を見ながら此处での生活に不安や不満を感じられないように支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①大まかな日課はあるが個々のペースに合わせた日々の暮らしを支援するようにしている。(食事・入浴等) ②買い物や病院受診の希望等あればそれらを優先している。③全部の方の個々バラバラの希望には添えていない。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	①理容等は本人・家族の希望に添うようにしている。希望がない方は定期的に町内の理容院に来てもらっている。②家族が美容院の方は自宅に連れて行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①台所が一緒に作業出来る様な配置になっていない。②重度の方が多く作業するのが能力的に難しいが簡単な野菜の整理や皮むき等手伝ってもらうこともある。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、オヤツ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	①飲み物(酒・コーヒー・ヤクルト)等は希望されれば随時提供している。②オヤツ類は施設提供の物とは別に個人で持たれたり預かる等している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時と随時に排尿誘導を行い、日中はパンツ・夜間はオムツ等1人1人の状態に応じて支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日置の入浴を基本としているが1階・2階のどちらかが毎日入浴できるので希望者は毎日でも入浴できる。時間の午前・午後どちらでも入浴可能として希望通りにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩をしたり昼寝をしたりと気の向くままに過ごされるように支援している。季節により庭での日光浴を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々にレクリエーションや手作業等を出来る限り取り入れるようにしている。又天気の良い日は庭での日光浴・レクリエーション等を行い気晴らしに努めている。ボランティアの受け入れ等積極的に行い気晴らしに努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名かは手元にお金を持ち買い物等に出かける希望もあるのでその時は付き添いの支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごされずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日光浴・散歩等積極的に取り入れている。又ドライブや買い物の付き添い等出来る限り屋外に出かけられるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	①お墓参り・仏様お参り・買い物・お寺参り・ドライブ・買い物等個別に対応している。②全員での外食も行っている。③家族と共に出かけられ軽食をされる方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は自由にかけられている。手紙の投函を頼まれたりする。		
64	○家族や馴染みのひとの訪問支援 家族、知人、友人など、本人の馴染みの人達が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室が個室なので家族や知人の方の訪問等気を使われなくても済み気軽に過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の側に幹線道路が通っており、日中・夜間共に交通量が多い。そのために玄関の自動ドアのスイッチの位置を定位置よりずらして設置している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通じて利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を問わず利用者の居場所を把握できるようにリビングに居るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	①物品は収納の工夫で対応している。(誤嚥防止) ②冷蔵庫は開かない工夫をしている。(異食防止)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	①転倒・窒息・誤薬等リスク事故防止のため毎月の職員会議等で話し合いをしている。 ②火災等の啓蒙は利用者・職員共にビデオをみたり毎月の職員会議で話し合い等している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	①定期的に救急救命の訓練を行い急変時の初期対応の周知徹底を行っている。②緊急連絡簿は所定の位置に置き誰でもすぐに分るようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の１０月に地域の方の参加協力を得て避難訓練をした。今年度は消防署と合同で訓練を行う予定。（１１月１３日予定）		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスク・対応は職員会議で話し合い対応策を検討し職員全員が周知するようにしている。状態に応じてその都度家族には話している。		
(５) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対策 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	観察記録・申し送りノート等で情報を共有をし早期の対応に結び付けている。異変に気付いた時はすぐに病院受診をしたり主治医に上申したりし初期の対応をするようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は職員が管理をしている。（外用薬は数人持っている）目的・用法・用量については理解している。状態の変化が見られた時は主治医に上申するようにしている。		
75	○便秘の予防と対策 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①食事の工夫とし水分摂取の工夫や朝食に便秘予防の果物を配膳している。②食事前の体操等を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた対応（誘導・歯磨き・嗽等）の介助を行っている。歯科受診も支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①量・好み・大きさは1人1人にあった支援をし水分等は何時でも飲めるように飲水器を設置した。食事時以外に10時・3時に飲み物を出している。②食事が入らない方は主治医と相談し栄養補助飲料を使用し施設独自でも購入している。③不定期ではあるが献立表を他施設の管理栄養士に見てもらいアドバイスをを受けたり職員の要資格者がカロリー計算をしている。	○	栄養不足・水分不足を発生させないよう細かな観察をし1人1人の状態の把握に努めていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	①職員健康診断→年1回実施（9月に終了）②利用者健康診断→主治医と相談しながら年1～2回定期的に行っている。③インフルエンザ→11月20日→職員・利用者実施予定。④風邪気味の職員はマスク使用を義務づけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具などの衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①食材→前日かその日に納入してもらっている。②調理器具・利用者の楽のみ・コップ等→定期的に消毒している。③副食の生物等は使い捨ての手袋を使用している。④利用者には残菜を部屋に持ち帰らないように説明をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人たちにとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	前庭は広い芝生があり周りには季節の花等が咲いている。気持ち良く思ってもらえる環境にあると思う。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が明るく、共用の空間の適度な明るさである。玄関等は季節の花を絶やさないようにしている。居室は朝夕どちらがで光が入り気持ちが良い。トイレは各居室にありブラーバシーは保っている。台所は居間と直結しており食事の臭いが漂い生活間を感じる事が出来る。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、ひとりになれたり、気のあった利用者同士が思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・食事用の椅子に思い思いに座られている。その時々でソファの位置を変えたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊りの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒・仏壇・テレビ等置かれている。毛布等も自宅で使用されていた物を持ってこられている。		
84	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないう換気に努め、温度調整は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	①悪天でない限り朝食時に居室の換気をしている。天気の良い日は終日窓を開放している。②掛け布団等も寒暖に応じて調整している。③冷暖房はその時々で対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している	①玄関～2階に昇る階段以外は段差はなく廊下・自室の洗面所には手すりがついている。②状態に合わせてベット位置を変更している。③居室・廊下等には物を置かないようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	重度の方が多くADLの全てに介助を必要とされる。自力で出来る部分は見守りや声かけで行うように心掛けている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い芝生があるので天気の良い日の散歩・日光浴・レクリエーション等活用している。芝生の散歩や季節の花等楽しまれている。今年は桜の花の花見をしたし5月には鯉のぼりを泳がせ楽しんだ。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目			もっとも近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどいない

グループホームえびらお Aユニット

項 目		もっとも近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まったり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が
			②家族の2/3くらいが
			③家族の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【アピールしたい点】

- ① 主治医の変更をしない→入所前から受診・通院されていた病院を変更しない。主治医とコミュニケーションが容易にできその方の既往症・現病が容易に分り内服薬の処方・変更もスムーズにできる。健康管理がしやすい。
- ② 毎日、A・Bユニットどちらかの風呂が沸いている。入浴したいと思えば毎日入浴できる体制になっている。
- ③ 庭の散歩・日光浴→天気の良い日は庭の散歩・日光浴に取り組んでいる。
- ④ 環境が良い→建物が自然豊かな場所にあり四季の移ろいが分りやすいく空気がきれい。今年は桜の苗木を植えたので数年後には桜の花見も出来るようになる。
- ⑤ 自家畑での収穫→旬の野菜を収穫できその野菜をその日に食する事ができる。旬を眼の前にし味合うことができる。
- ⑥ 建物周り→広い芝生の庭がある。居室→全個室・《トイレ・洗面台つき・押入れ・冷暖房・ベット（個別対応）配置》
- ⑦ 個人の私物の持ち込みは動物以外は自由としている。仏壇・テレビ・筆筒等。 ⑧食事は好みを聞き季節の食材も多く取り入れている。

【力をいれている点】

- ① 地域密着→地域の方との繋がりを密にしていきたい。施設で催し事を行う場合、近隣の方に声をかけ共に楽しむことが出来るようになってきた。